

# エンカウンター（ENCOUNTER）

## 第 13 号

平成 15 年 5 月 20 日

発行所 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西 2-14-28 山口周三

電話 045-912-1960

### パウロの手紙より（2） 「ローマ人への手紙」より（2）

#### 10 章 9 ~ 13 節

すなわち、自分の口で、イエスは主であると告白し、自分の心で、神が死人の中からイエスをよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われる。

なぜなら、人は心に信じて義とされ、口で告白して救われるからである。

聖書は、「すべて彼を信じる者は、失望に終わることがない」と言っている。

ユダヤ人とギリシヤ人との差別はない。同一の主が万民の主であって、彼を呼び求めるすべての人を豊かに恵んでくださるからである。

なぜなら、「主の御名を呼び求めるものは、すべて救われる」とあるからである。

#### 11 章 4 節

「バアルにひざをかがめなかった七千人を、私のために残しておいた」。それと同じように、今の時にも、恵みの選びによって残されたものがある。

## 1 2 章 1 節

兄弟達よ。そういうわけで、神のあわれみによってあなたがたに勧める。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげなさい。それが、あなたがたのなすべき霊的な礼拝である。

## 1 2 章 2 節

あなたがたは、この世と妥協してはならない。むしろ心を新たにすることによって、作り変えられ、何が神のみ旨であるか、何が善であって、神に喜ばれ、かつ全きことであるかを、わきまえ知るべきである。

## 1 2 章 3 節

わたしは、自分に与えられた恵みによって、あなたがたひとりびとりに言う。思うべき限度を越えて思いあがることなく、むしろ、神が各自に分け与えられた信仰の量りにしたがって、慎み深く思うべきである。

## 12章5～6節

わたし達も数は多いが、キリストにあって一つのからだであり、また各自は互いに肢体だからである。

このように、わたしたちは与えられた恵みによって、それぞれ異なった賜物を持っているので、もし、それが預言であれば、信仰の程度に応じて預言をし、奉仕であれば奉仕をし、また教えるものであれば教え、勧めをするものであれば勧め、寄附をするものは惜しみなく寄附をし、指導をするものは熱心に指導をし、慈善をするものは快く慈善をすべきである。

## 12章9～14節

愛には偽りがあってはならない。悪は憎み退け、善には親しみ結び、兄弟の愛をもって互いにいつくしみ、進んで互いに尊敬し合いなさい。

熱心でうむことなく、霊に燃え、主に仕え、望みをいだいて喜び、患難に耐え、常に祈りなさい。

貧しい聖徒を助け、努めて旅人をもてなしなさい。

あなたがたを迫害するものを祝福しなさい。祝福してのろってはならない。

## 12章15節

喜ぶものと共に喜び、泣く者と共に泣きなさい。

互いに思うことを一つにし、高ぶった思いをいだかず、かえって低い者たちと交わるがよい。自分が知者だと思いがってはならない。

誰に対しても悪をもって悪に報いず、すべての人に対して善を圖りなさい。

あなたがたは、できる限りすべての人と平和に過ごしなさい。

### 13章 1～7節

すべての人は、上に立つ権威に従うべきである。なぜなら、神によらない権威はなく、おおよそ存在している権威は、すべて神によって立てられたものだからである。従って、権威に逆らうものは、神の定めにもむく者である。……………

あなたがたは、彼らすべてに対して、義務を果たしなさい。すなわち、貢を納べきものには貢を納め、税を納べきものには税を納め、恐るべきものは恐れ、敬うべきものは敬いなさい。

### 13章8～9節

互いに愛し合うことのほかは、何人にも借りがあってはならない。人を愛するものは、律法を全うするのである。

「姦淫するな、殺すな、むさぼるな」など、そのほかに、どんな戒めがあっても、結局「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ」と言うこのことばに帰する。

### 13章12節

わたしたちは、やみのわざを捨てて、光の武具を着けようではないか。そして、宴楽と泥酔、淫乱と好色、争いとねたみを捨てて、昼歩くように、つつましく歩こうではないか。

あなたがたは、主イエス・キリストを着なさい。肉の欲を満たすことに心を向けてはならない。

#### 14章1～4節

信仰の弱いものを受け入れなさい。……ある人は、何を食べてもさしつかえないと信じているが、弱い人は野菜だけを食べる。食べる者は食べない者を軽んじてはならず、食べない者も食べる者をさばいてはならない。神は彼を受け入れてくださったのであるから。

#### 14章17～18節

神の国は飲食ではなく、義と、平和と、聖霊における喜びとである。こうしてキリストに仕えるものは、神に喜ばれ、かつ、人にも受け入れられるのである。

こういうわけで、平和に役立つことや、互いの徳を高めることを追い求めようではないか。

#### 15章1節

わたしたち強い者は、強くない者たちの弱さをになうべきであって、自分だけを喜ばせることをしてはならない。

### 15章13節

どうか、望みの神が、信仰から来るあらゆる喜びと平安とを、あなたがたに満たし、聖霊の力によって、あなたがたを、望みにあふれさせてくださるよう。

### 15章20節

その際、わたしの切に望んだところは、他人の土台の上に建てることをしないで、キリストの御名が、まだ唱えられていない所に福音を述べ伝えることであった。

## 16章1～23節

ケンクレアにある教会の執事、わたしたちの姉妹フィベを、あなたがたに紹介する。どうか、聖徒たるにふさわしく、主にあって彼女を迎え、そして、彼女があなたがたにしてもらいたいことがあれば、何事でも、助けてあげて欲しい。彼女は多くの人の援助者であり、また私自身の援助者でもあった。

キリスト・イエスにある私の同労者プリスカとアクラとに、よろしく言ってほしい。彼らは、わたしのいのちを救うために、自分の首をさえ差し出してくれたのである。彼らに対しては、わたしだけではなく、異邦人のすべての教会も、感謝している。また、彼らの家の教会にも、よろしく。

私の愛するエパネットに、よろしく言ってほしい。彼は、キリストにささげられたアジアの初穂である。……

わたしの同労者テモテおよび同族のルキオ、ヤソン、ソシパテロから、あなたがたによろしく。(この手紙を筆記したテルテオも、主にあってあなたがたにあいさつの言葉をおくる。)わたしと全教会と  
の家主ガイオから、あなたがたによろしく。市の会計係エラストと兄弟クワルトから、あなたがたによろしく。

## 16章25, 26節

願わくは、わたしの福音とイエス・キリストの宣教とにより、かつ、長き世々にわたって、隠されていたが、いまやあらわされ、預言の書をとおして、永遠の神の命令に従い、信仰の従順に至らせるために、もろもろの国人に告げ知らされた奥義の啓示によって、あなたがたを力づけることのできる方、すなわち、唯一の知恵深き神に、イエス・キリストにより、栄光が永遠より永遠にあるように、アメン。